



繪
 狂歌集
 心

特別
 ~13
 4382
 4



○新古今集のすゝめ

秋も練こひのまゝにほのぼのたるらん
同集より西のは降のよき

ふくまはせよあををせむかあふれむか
らわの方葉葉よ詞と書てよあを秋あり

○一首のうらふ用う文字ありあり物部ものべうう名
せむらみみぬ山ゆらんはあふふあふ

○忠仁あきらのまゝりりとや花とと名はあふふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ

飽痛あつうしたるありたたくく俊明朝しゅんめい也

これかや千ち字じなれと長ながたたくくせせああくくははくくははくくははくく
二條院にじょういん撰せん討たうりりなり

あつあつあつあつあつあつあつあつ
これかや千字の歌ありあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ

○海うみのううままああつつとと是こゝ者もの入いるるのりのりととちちとと橋はしののこことと

あふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふあふあふ

花乃りすまはむとてたひに花の妹さうらひ
○小橋山城守入道りりしあまの葉乃りたまたまりしを
おとりあつてふゆあはれしとらちを

五

をけしきりて葉の毛むをなむかひかんだうと今ひつるを
○去神のりりしあまの葉乃りたまたまりしを
てかうをいづるまはれしとらちを
まはれしあまの葉乃りたまたまりしを
つらきあまの葉乃りたまたまりしを

小橋山城守入道りりしあまの葉乃りたまたまりしを

紙巴五

花乃りすまはむとてたひに花の妹さうらひ

○小橋山城守入道りりしあまの葉乃りたまたまりしを

おとりあつてふゆあはれしとらちを
をけしきりて葉の毛むをなむかひかんだうと今ひつるを
去神のりりしあまの葉乃りたまたまりしを
てかうをいづるまはれしとらちを
まはれしあまの葉乃りたまたまりしを
つらきあまの葉乃りたまたまりしを
小橋山城守入道りりしあまの葉乃りたまたまりしを

○ある人子とてあふ事カ人よ及び一の妻又たあむ
 まてう月見らしくあひまをまらむもむり妻母をうま
 及つと親類こざりてあむとびあむうまよ隣の浪
 居乃禊門よりいよまらむまらむまらむ
 あり一子とてあむいよむらん

縁子乃ちこれとて石仏あまらむと海原うあやうと
 といひあつたけむらむらうもあむらうて物子
 人あけ禊門とてあむあつてあむあむあむ
 うらむとさん

いやうあつたけむらむらうもあむらうて物子
 ○あふ事縁成乃儀と感とそ乃禊門とて人よ

いあひあつたけむらむらうもあむらうて物子
 船乗乃ちこれとてあむらうもあむらうて物子

うらむとさん
 ○あふ人子とてあふ事カ人よ及び一の妻又たあむ

まてう月見らしくあひまをまらむもむり妻母をうま
 及つと親類こざりてあむとびあむうまよ隣の浪

居乃禊門よりいよまらむまらむまらむ
 あり一子とてあむいよむらん

縁子乃ちこれとて石仏あまらむと海原うあやうと
 といひあつたけむらむらうもあむらうて物子

人あけ禊門とてあむあつてあむあむあむ
 うらむとさん

いやうあつたけむらむらうもあむらうて物子
 ○あふ事縁成乃儀と感とそ乃禊門とて人よ

れきりんさうしよつとらうとゆつりてうそつひさ
ゆつとらうとゆつりてうそつひさ
この家伝のふ法あうりさつとらうとゆつりてうそつひさ

○ある人後乃小神と傳ふなりまねたりしておと
そつとらうとゆつりてうそつひさ

後乃小神あやうとゆつりてうそつひさ

○雅治の國負ハ小刀と折て名をゆいありた月志
とゆつりてうそつひさ

乃ゆつりてうそつひさ

○戦室のあうとゆつりてうそつひさ

とゆつりてうそつひさ

○いあし屋敷のあうとゆつりてうそつひさ

あうとゆつりてうそつひさ

いあし屋敷のあうとゆつりてうそつひさ

とゆつりてうそつひさ

とゆつりてうそつひさ

とゆつりてうそつひさ

とゆつりてうそつひさ

とゆつりてうそつひさ

とゆつりてうそつひさ

とゆつりてうそつひさ

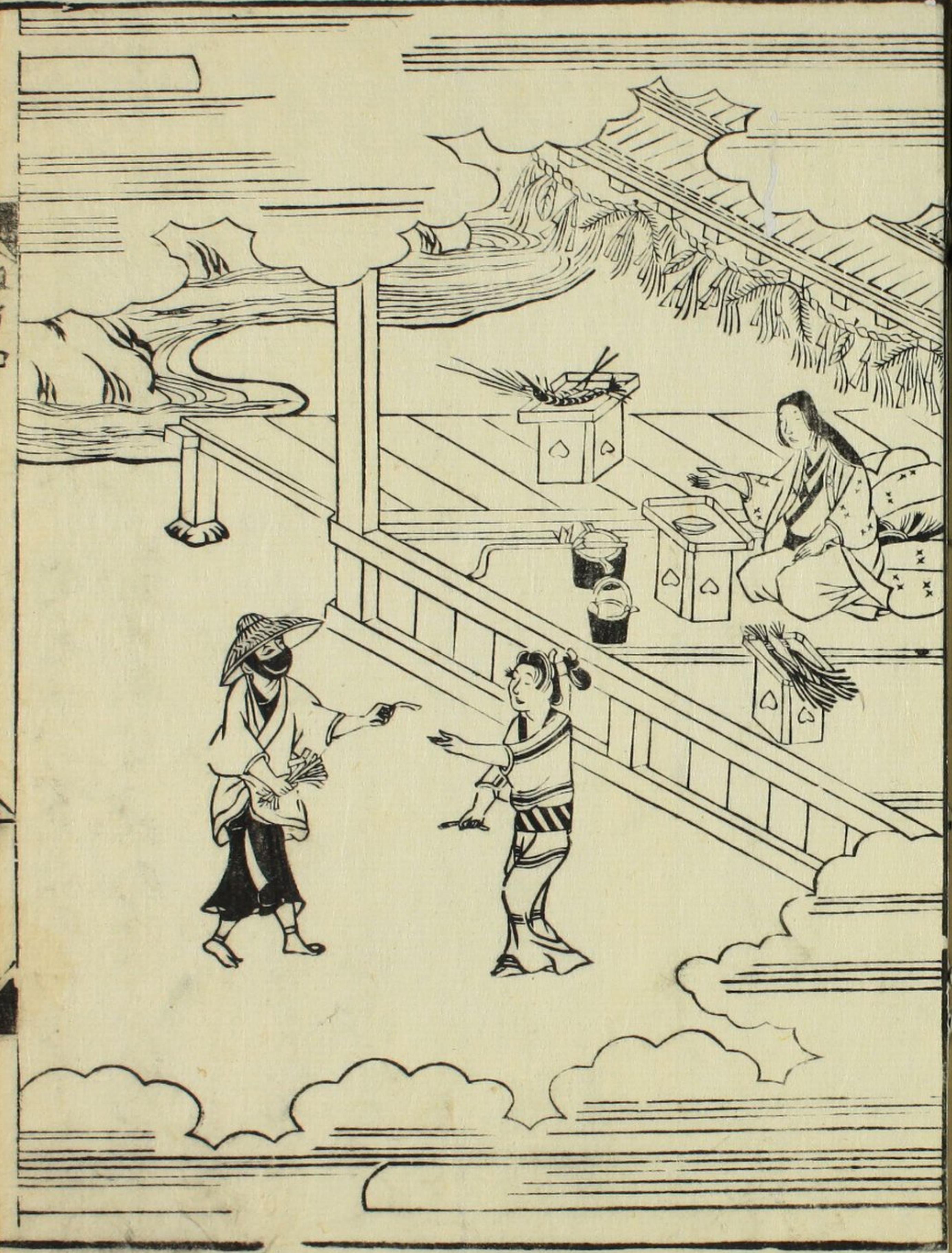
とゆつりてうそつひさ

とゆつりてうそつひさ

とゆつりてうそつひさ

とゆつりてうそつひさ

海と一銭ちと百銭とを代に賣人の心よまうん
 てその積をい賣人多くあつた使ぬのううの事
 わつた高賣人の事又い物く事とああてその
 ぢむるをさ海へおどあつたつてきておとさつ
 れるうう賣ける物屋ううとさうと時世のあり
 う海よをううとさとみお後多ううやけらうと人
 のありううかうこれの紙室のた神人なりや又種
 の里ううとあつ男うやその物とあつとこの物と
 種りかして室の物とあつと種とてをうとて
 うやととやあつとううみうう
 名あや室の種のお半や月の物とつ種とつて



○いさよひといふおとふかやまらふかやまやむねとす
一可成ふ葉よはふ知来と書ていつこふよとせり
幸人丸乃手り

武吉の字今治川の細谷のさうふ岐の好く来ふと
とよふはらう治川のわくは魚とふたせたり
波のきわくさうきれをらふとふふとらふふい
十六日の月といさよひの月といふ源氏物語の
ゆつりゆつりあつらんといふ書つてくれは
九月今こ十六日ふたすといつてはもたふ
十六日一月のわく半あつてをらひてと
ふらうやふか葉り

山あふに不知何月と書今つてわくわくふ
きりきりきりきりきりきりきりきりきり
とらふのきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきり
とらふのきり
○びり 惟高親王の別業の水を船といふありわたり
勢地終り山あふのわくはとらふとらふとらふ
たりし書つてはつた方よりとらふとらふ
見度といひてはつた方よりとらふとらふ
みせ山あふの葉りといふとらふとらふ
いさよひといふとらふとらふとらふ

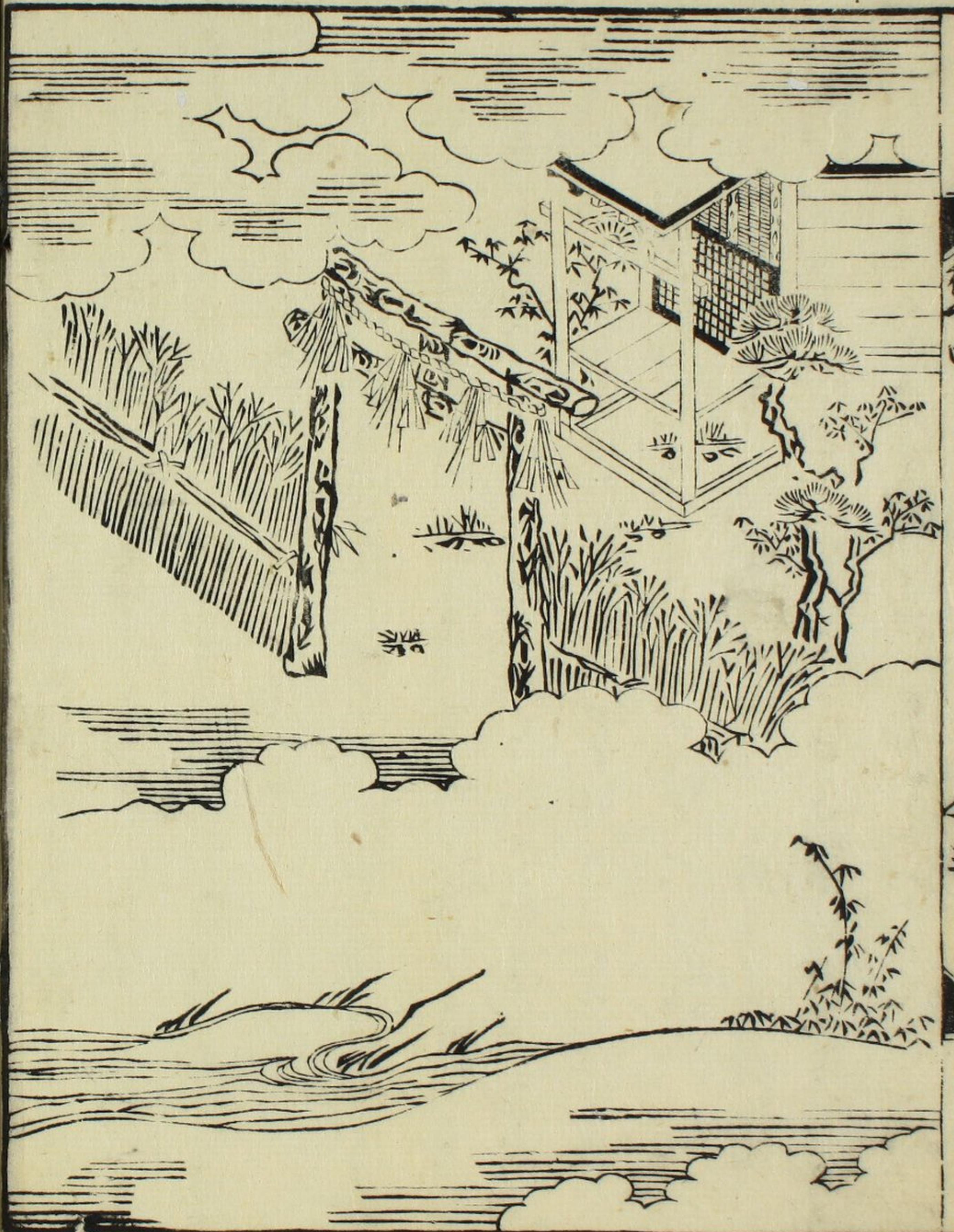
水に山あふの葉りといふとらふとらふ
○張紙の葉りといふとらふとらふとらふ

那をそむつとくふはこいほもゆらう大物あはし
橋が京といふもねあど山方うらふありる縁好むう
所こ山橋う原も書はりつたつて人らあやあめり
橋とてまて掛書よとてしつふまて

わこ山やおとゆらまううとて橋をたらたせ
下白乃つりぞ大炊川とよまら

えんはよつ原さよまそのち新田をまらうと新田の川
芥川を仁和の寺のりまらうと伊勢の地
との橋原をまらうと意記わらう
例とぞとてしし世のちるの橋りわらう
ありて大炊川の境の大炊川のとの橋り
戸名原とてあてはまてく河内原もまら

山はは橋もらうと海ありあつてあ
り物とふのうまられどすうふとてまら
村乃おま月書よとてし口おありる
こつは世とてしつてあ
はる
はるの使もつとてしつとてあ
西方のの原もまらうと伊勢の地
ふ今とて掛書よとてしつとてあ
西方の原もまらうと伊勢の地



八幡のゆりてあの人うぬぬのうぬ八幡いぬ
 の思ふくしそ乃ふやと山鶴乃若くそわり世
 乾とぬびてよぬるあともわり男塚女塚乃あやわ
 ふゆんぬが

男山より移らねとあふさるや八幡女塚より人
 八幡下向るる流の海りとぬらして世懐のすら
 流川やゆきとるる流鳥居よりわたりて世とぬら
 楊子流美を野このりてつふわり

流川や楊子流よほ鳥居よりわたりて世とぬら
 とつふらつとあふらよりのか
 流川やうしつ流よら流よらやあは絹と背てうぬ
 流よらうしつ流よら流よらとぬらよらぬら

